

職員による自己評価

A 適切な支援の提供

プログラムについては毎月、計画を立て出来るだけ幅広い内容を段階的に実施している一方で、コロナ禍で物の共有等の制限があり、展開の難しさがあった。

親子日の分散でクラス全員が集まる機会が少なかった為、保護者同士の情報交換の機会が減ってしまった。

B 保護者への説明責任

個別支援計画について定期的な面談や日々の中で保護者とお子さんの様子や支援内容、当日の取り組み方など密にやり取りをしている。

C 非常時等の対応

利用者ハンドブックを活用し周知を行っている。また今年度は新型コロナウイルスの感染状況で方針の変更等が多かった現状があった。また、コロナ禍で保護者を集団化し口頭で説明する機会をもつ事が難しく説明が不足している。

D 関係機関との連携

就学先との引継ぎを行っている。平行利用先の幼稚園等を対象とする療育参観はコロナ禍の為、時期をずらして実施した。

E 業務改善

利用者アンケートや園長懇談などで伺った意見を基に可能な範囲で改善を行っている。職員育成についてはフォーマルな指標を用いた評価の視点の研修を行った。また行動計画を用いて計画的に実施している。

保護者による評価

A 適切な支援の提供

プログラムについて繰り返しで変化が少ない方が子どもたちも混乱が少ないので良いとの意見がある一方で、コロナ禍を考慮した新たな取り組みがあるといいという意見がある。

保護者同士の連携への支援について 25名(61%)の方が「どちらともいえない」「わからない」と回答している。

B 保護者への説明

個別支援計画書の説明や日常の中での職員とのやり取りについての設問では 100%のご家庭が支援されていると回答している。

C 非常時等の対応

緊急時の対応マニュアルの周知、説明について 8割以上の保護者には理解してもらっているが、2割弱の保護者が「どちらともいえない」「いえ」「わからない」と回答している。

D 満足度

9割以上の保護者が満足と回答している一方で、新型コロナウイルス感染予防の取り組みで行った内容(個別面談、分散登園、バスの乗車人数調整等)についてご意見を頂いた。

事業所内での分析

【共通点】

- 個別支援計画や親子日や分離の際の書面でのやり取り等、子どもの支援の方向性について保護者と職員が同じ方向で進める事が出来ている。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みを行う事で、通園利用に関する色々な面で制約があった。
- 通園の運営方針などは書面で配付したが、密を避ける為に保護者に集合形式で周知する機会が少なく、具体的な内容を共有しきれていない現状がみられる。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みを行った結果、親の会の活動等の休止や親子日の分散等で保護者同士が情報交換する機会が減少した。

分析・検討してみても…

事業所の強み

○多職種や他機関と連携を図り、ひとり一人のお子さんに適した支援を実施している。

日々の振り返りや多職種とのカンファレンスを定期的に行い、多角的な視点を取り入れ日々の療育を実施している。日々の療育は児童発達支援管理責任者や関係スタッフが担任と連携し、お子さんの「わかる・楽しい・達成感」を意識したプログラムを提供している。

○保護者支援の充実に努めている。

お子さんの様子や支援内容、日常の困り事等を親子通園日、個別面談、電話相談、連絡ノート等の機会を活用し、共有や相談を行っている。親子日を分散した事でクラス懇談時に個々の保護者のニーズに合わせたやり取りが出来た。

事業所の改善点

○緊急時の対応や感染症対応など利用者ハンドブックにわかりやすく記載する事と合わせて丁寧な口答説明を複数回する必要がある。

○クラス全員の保護者が揃い、保護者同士が情報交換できる機会の設定が必要である。

事業所の改善への取り組み

- ◆クラス全員の保護者が集まる場を定期的に設け、情報交換が出来るような機会を設けます。
- ◆緊急時の対応や感染症対応など利用者ハンドブックにわかりやすく記載する事と合わせて丁寧な説明を保護者連絡会等を活用し、複数回実施します。
- ◆新型コロナウイルスの感染対策はしばらく続く為、今年度実施した内容（プログラムや保護者支援）を検証し、次年度は計画的に実施していきます。療育プログラムについては内容や展開の仕方を検討し、お子さんの「わかる・楽しい・達成感」を意識したプログラムの提供を行います。また、引き続き、保護者の療育ニーズを的確に捉え、療育内容や方向性等をより丁寧な説明を行い、共有に努めます。
- ◆お子さんやご家族への支援の向上をめざし、職員育成に努めます。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け、対応を検討・実施・調整をしながらの1年となりました。また、そのような状況の中、利用されているご家庭には様々な面でご理解、ご協力を頂き本当に感謝しております。今回の保護者アンケート調査や自己評価を行う中で、保護者の皆さまと同じような事を職員も感じていた事を再認識しました。また、私たちが行っている支援内容について、アンケートをご提出頂いた95%弱のご家庭より満足との回答を頂いておりますが、引き続き保護者の方と様々なやり取りをさせて頂く機会を持ちながら一緒に療育を進めていけたらと考えております。今後もお子さんおよびご家庭への支援の充実に努め、職員一同努力してまいります。

職員による自己評価

A 適切な支援の提供

プログラムは毎月、計画を立て出来るだけ幅広い内容を段階的に実施している一方で、コロナ禍で物の共有等の制限があり展開の難しさがあつた。親子日の分散でクラス全員が集まる機会が少なかった為、保護者同士の情報交換の機会が減ってしまった。

B 保護者への説明責任

個別支援計画については定期的な面談や日々の中で保護者とお子さんの様子や支援内容、当日の取り組み方など密にやり取りをしている。情報伝達の手段として書面の活用も行った。

必要な情報はお知らせやマチコミを活用し提供した。

C 非常時等の対応

新型コロナウイルスの感染拡大状況を考慮し避難訓練を計画・実施した結果、例年より訓練回数が減ってしまった。

D 関係機関との連携

就学先との引継ぎを行った。

E 業務改善

利用者アンケートや園長懇談などで伺った意見を基に可能な範囲で改善を行っている。職員育成についてはフォーマルな指標を用いた評価の視点の研修を行った。また行動計画を用いて計画的に実施している。

保護者による評価

A 適切な支援の提供

個別支援計画に沿った支援が行われているか、プログラムが固定化されないように工夫されているかの設問に対し100%のご家庭が「はい」と回答している。

保護者同士の連携への支援について4名(50%)の方が「どちらでもない」「わからない」と回答している。

B 保護者への説明

個別支援計画の説明や日常の中での職員とのやり取りを通して子どもの状態や課題についての設問では100%のご家庭が「はい」と回答している。また、丁寧に申し送りがされていて安心とご意見を頂いた。

情報発信の設問で3名(38%)の方が「どちらでもない」と回答している。

C 非常時等の対応

マニュアル関係の周知、説明の設問では100%のご家庭が「はい」と回答されている。事情災害時に備え必要な訓練についての設問では2名(25パーセント)の方が「どちらともいえない」と回答している。

D 満足度

アンケートに回答された全家庭が満足と回答している。

事業所内での分析

【共通点】

- 関係職種と利用児の目標や課題などを確認し、保護者と日々の療育時間や個別支援計画書で確認、共有する事で同じ方向での支援につながっている。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みを行った結果、親の会の活動等の休止や親子日の分散等で保護者同士の情報交換する機会が少なかった。

【相違点】

- コロナ禍でのプログラムを提供する際に制約があり難しかったと振り返ったが、保護者は工夫があり満足している状況がみられた。
- 非常災害時に備え、コロナ禍の状況を考慮した形での避難訓練の実施が必要だった。

分析・検討してみても…

事業所の強み

○多職種や他機関と連携を図り、ひとり一人のお子さんに適した支援を実施している。

多職種とのカンファレンスや日々の振り返りを定期的に行い、多角的な視点を取り入れ日々の療育を実施している。日々の療育は児童発達支援管理責任者や関係スタッフが担任と連携し、お子さんの「わかる・楽しい・達成感」を意識したプログラムを提供している。

○保護者支援の充実に努めている。

お子さんの様子や支援内容、日常の困り事等を親子通園日、個別面談、電話相談、連絡ノート等の機会を活用し、共有や相談を行っている。

○他機関との連携に努めている。

就学時の引継ぎ等で連携している。医療への必要なお子さんは医療主治医と緊急時の対応等の確認を行っている。

事業所の改善点

○保護者同士が情報交換できる機会の設定が必要である。

○コロナ禍で密を避けて安全に避難できる訓練の仕組み作りが必要である。

事業所の改善への取り組み

- ◆クラス全員の保護者が集まる場を定期的に設け、情報交換が出来るような機会を設けます。
- ◆密に配慮した形での避難訓練を実施します。併せて「緊急時の対応や感染症対応」など利用者ハンドブックにわかりやすく記載する事と合わせて丁寧な説明を保護者連絡会等を活用し複数回実施します。
- ◆新型コロナウイルスの感染対策はしばらく続く為、今年度を実施した内容（プログラムや保護者支援）を検証し、次年度は計画的に実施していきます。プログラムについては内容や展開の仕方を検討し、お子さんの「わかる・楽しい・達成感」を意識したプログラムの提供を行います。また、引き続き、保護者の療育ニーズを的確に捉え、療育内容や方向性等をより丁寧な説明を行い、共有に努めます。
- ◆お子さんやご家族への支援の向上をめざし、職員育成に努めます。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け、対応の検討・実施・再調整を行ないながらの1年となりました。また、そのような状況の中、利用されているご家庭には様々な面でご理解、ご協力を頂き本当に感謝しております。今回の保護者アンケート調査や自己評価を行う中で、保護者の皆さまと同じような事を職員も感じていた事を再認識しました。また、私たちが行っている支援内容について、アンケートをご提出頂いた全ご家庭の満足度を頂いておりますが、引き続き保護者の方と様々なやり取りをさせて頂く機会を持ちながら一緒に療育を進めていけたらと考えております。今後もお子さんおよびご家庭への支援の充実に努め、職員一同努力してまいります。

職員による自己評価

A 「適切な支援の提供」について

担任および児童発達支援管理責任者、心理等多職種との連携し、お子さんひとり一人に対して多面的な評価を実施し、カンファランスや日々の振り返りを通じて、お子さんに合わせたプログラムと支援方法を検討している。しかし、コロナ禍で感染対策上、物理的距離の確保、物の共有をしない、密を避けるため参観の分散など制約が多く、実施できないプログラムも多かった。

B 「保護者への説明等」について

コロナ禍で、参観の制限や話す機会が少なく、同じ場面を共有していくことが難しかった。そのため、電話による相談が多くなった。一方、参観人数を限定したことで、年3回設定の個別面談以外でもじっくり話す機会がもてた点はよかったとの意見もあった。

年度後半は保護者教室にかわり、VTR 視聴や動画配信を行い、密を避けつつ取り組める支援を工夫した。

C 「関係機関との連携」について

コロナ禍で密になることを避けるため、園の先生方向けの療育参観週間を取りやめ、園への訪問が制限されたことで、日々生活をしている園での様子の把握や相談がしにくかった。

E 「非常時等の対応」について

障害特性に合わせて事前の配慮を行い、避難訓練を実施している（紙芝居の作成や、感覚過敏に配慮）。また、おたよりに定期的に掲載することにより、昨年度より認知度が改善した。

保護者による評価

A 「適切な支援の提供」について

「客観的分析の上で個別支援計画書に沿った支援が行われているか」について、9割以上の方に満足と回答いただけているが、「支援時間が短くじっくり取り組めていない」「こども同士横のつながりがない」といった感染対策のため実施できていない支援についてのご意見をいただいている。

B 「保護者への説明等」について

個別支援計画書や個別面談を通しての説明には9割以上の方に満足と回答いただけている一方、コロナのため、参観が少ない、先生と話す機会が少ない、保護者会やつながりができていない、といったご意見が多く聞かれている。

C 「非常時の対応」について

アンケートで100%の方に満足と回答いただけている。

D 「満足度」について

9割の方が満足とご回答くださり、心強いと記述いただけているが、「(宣言中の)4月から毎週利用したかった」「参観が少ない」とのご意見もいただいている。

事業所内での分析

【共通点】

- お子さんに合わせたプログラムができており、お子さんが登園を楽しみにしてくれたり、保護者が支援サービスについて満足したりしていただいている。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止の対応のため、様々な制約が多かった。

分析・検討してみて…

事業所の強み

○一人ひとりのお子さんのアセスメントに基づいた支援を実施している。

- ・担任および児童発達支援管理責任者、心理職や作業療法士等の多職種との連携し、多面的なアセスメントを実施している。
- ・カンファランスや日々の振り返りを通じて、集団場面においても、お子さんに合わせた個別性の高いプログラムと支援方法を実施している。

○新たなツールを試行することができている。

- ・新たに、VTR 視聴や動画配信などを使い、保護者教室の補完を実施している。

事業所の改善点

○感染対策をしながらも、工夫によりプログラムが実施できるように努めます。

- ・今年度の経験を活かし、こども同士のやりとりや保護者教室の実施、保護者と話す機会を保障できるように努めます。
- ・園の先生向け療育参観は、分散できるようスケジュールを組み実施します。

○支援の向上をめざし、職員の育成に努めます。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、絶えず対応方法を検討しながらの1年となりました。このような中、感染対策にもご協力くださり、またアンケート結果からは、皆様にご理解くださっていたこと、もっと療育を受けたかったとの嬉しいお声をいただき、心から感謝申し上げます。

皆様からのご意見を改善につなげ、さらに工夫を重ねながら、より質の高い療育をめざして取り組んでまいります。